

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

-
- **2** ダイナミックな多角的、立体的構造：背後に神意 [偶然はない]
全聖書の構成の焦点は、人類の救い主イエス・キリスト
 - **4** 聖書自体が成就を証しする ^{まこと} 真の神の預言：聖書が聖書を解釈
神の約束の確かさ、成就の確かさ（ご自身の言葉に真実な神）
 - **6** 究極的に立証される神のすべての言葉
キリストご自身が神のご計画の「しかり」、アーメン
-

使徒パウロの宣教

その21

コリントの教会へのパウロの四通の手紙と三度の訪問

1 パウロの最初の訪問 —コリントの教会設立時—

① 「前の手紙」

② 『コリント人への手紙第一』

2 二度目の「辛い訪問」

③ 「あの厳しい手紙」

④ 『コリント人への手紙第二』

3 三度目の訪問 —『コリント人への手紙第二』がコリントの教会に送られた後—

☆ 『コリント人への手紙第二』はおそらく、パウロがコリントに送った幾つかの手紙の混成書簡

☆ パウロが最初コリントを去った後、送った①「前の手紙」は明らかに紛失

→ コリント人第一-5：9

☆ クロエの家の者、教会内の派閥のニュースを報告

☆ 教会からの手紙、エペソに届られた

→ コリント人第一-16：17

☆ それに対するパウロの返事が②『コリント人への手紙第一』

☆ パウロ、その後、二度目の訪問

→ コリント人第二2：1

☆ パウロ、心かき乱されてコリントを離れた

☆ その後、教会の状態は悪化、パウロ、三度目に訪れる用意

→ コリント人第二12：14、13：1

☆ パウロ、三通目の手紙③「あの厳しい手紙」を書いた

☆ この手紙も失われた

→ 多くの学者の見解：一部が『コリント人への手紙第二』10-13章に保存

☆ 「あの厳しい手紙」はテトスがコリントに運び、テトス、エペソに戻る予定であった

☆ パウロ、マケドニヤに向けて出立

☆ テトス、パウロに会い、朗報を報告

聖書

- ☆パウロ、④四度目の手紙『コリント人への手紙第二』で、
コリントの教会の復興/改革に喜びを表明
→この書簡は、パウロの二度目の「辛い訪問」への言及で始まっている

☆パウロ、この後すぐ三度目のコリント訪問

『コリント人への手紙第二』

1章

- : 1 「…コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ」 :
* アカヤ地区のコリントは主要都市
- : 3 「…主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられ…」 :
* ほめたたえられるのは、三位格の神、すべて
* 「慰め」はギリシャ語の‘παράκλησις (パラクレシス)’
→父が送られる助け主「聖霊」
- : 4 「…私たちも、…どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます」 :
父なる神のための働き、ミニストリー
☆キリスト者の人生はミニストリー
* 他の人の人生に成長と実りをもたらすべく、神が個々の信徒にもたらされる超自然的な人生
* ミニストリーの源は神
- : 5 「それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまた…」 (下線付加) :
* 苦しみ
1. 自らの罪と神への叛逆のゆえ
2. 私たちに罪を起ささないようにするため
3. 私たちの性質を完全にするため
→ローマ人5:1-5
4. 子に対する父の訓練
→ヘブル人12:1-11
* パウロがローマ人5:1-5で語っている「神の恵み」とは、
私たちの人生に投資された神のような性質
- : 6 「もし私たちが苦しみに会うなら…耐え抜く力をあなたがたに与えるのです」 :
* パウロの関心はいつも兄弟姉妹、周りの人たち、隣人の主にある成長
* パウロ、自分自身のことで悩むのではなく、いつも他人に心が向けられている
- : 8 「兄弟たちよ。私たちがアジヤであった苦しみについて、ぜひ知っておいてください…」 :
* 自分には忍耐の限界を超えた圧力下、しかし、神の忍耐の限界ではない
* キリスト者にとって、死は終わりではない
- : 10 「ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちを救い出して…」 :
* 迫害にあって初めて、教会は、神の救いにしがみつく
- : 11-14 「あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださるでしょう…」 :
* 執り成しは聞かれる
* 主にある兄弟姉妹の相互理解の必要
- : 15-18 「…この計画を立てた私が、どうして軽率でありえたでしょう…」 :
* 中傷する人たちの言葉を反映
* 気まぐれによる軽薄な計画、約束ではない

聖書

- : 19-20 「…私たちは、この方によって『アーメン』と言い、神に栄光を帰するのです」 :
* 神の「しかり」は信徒の「アーメン」

聖書の構想

—贖いのご計画—

- ☆ 神は人を、ご自分を愛し、喜ぶ家族の一員としてご自分の似姿に造られた
* 人は神に反逆し、不従順を選び、エデンの園から追い出された
* 追放には、神からの疎遠と、被造物の身体の死が伴われた
* 人が墮落した直後、神は罪からの救い、
一人を贖うこと、贖いが女の種（子孫）から来ること、御国を復興すること— を
約束された
☆ 人類の希望の焦点は、この「贖い/救い」の約束
* 救い主の受肉は、人類史の中心的出来事
* キリストご自身が、神の約束のすべてに対する「しかり」
☆ 神のご計画の最高潮は「甦り」の出来事
* 死からのキリストの甦りは、神の啓示の感嘆符「アーメン」！

- : 21 「私たちがあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち…」（下線付加） :
* 聖化/聖め、一他と区別する— の過程
* 新生とは「新しく生まれる」こと、
「水（母の胎）から生まれた者が信仰告白によって、さらに霊によって生まれること」
→ ヨハネ3 : 5

- : 22 「神はまた、確認の印を私たちに押し…御霊を私たちの心に与えてくださいました」 :
* 「証印」—御霊—は、神が所有者であることの証拠！
* 私たち信徒の「アーメン」に応え、神は個々人に聖霊を授けられる
① ご自分の所有を封印するため
② ご自分が始められたことを完成するため
→ ピリピ人1 : 6

- ☆ 「…神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」（ローマ人8 : 28、下線付加）
→ 「アーメン」

2章

- : 3 「あのような手紙を書いたのは…私の喜びがあなたがたすべての喜びであることを…」 :
* パウロ、コリントの教会の人々から問題が正された、と聞いた後、
喜びに満ちてコリントへ行きたかった
: 4 「私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました…」 :
* 「厳しい手紙」への言及？
: 6 「その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから」（下線付加） :
* 教会の人たちは、その人を赦すべき
: 7 「あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと…」 :
* 悔い改めた人を赦さないことは、罪に寛容であることと同じく間違っている
* 悔い改めた罪人は、天での喜びの対象
* 赦しは、傷心を癒す

聖書

- : 10 「もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します…」 :
* キリストの代理人としての権威
- : 11 「これは、私たちがサタンに欺かれたいめです…」 :
* サタン、信徒を非難し、問題が絶望的であると信じ込ませる
* サタンの策略/用いる武器
† だまし、偽装、真理からの逸脱、自己弁護、誇り、自己中心、
動揺をもたらす強く否定的な感情、赦さない心、偏見、混乱…
- : 12 「…キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、主は私のために門を開いて…」 :
* パウロ、トロアス、一海を隔てて向こうがコリントー まで来ていた
- : 14 「…キリストによる勝利の行列に加え…キリストを知る知識のかおりを放って…」 :
* 14-16節、古代ローマの凱旋パレードのイメージを反映
-

古代ローマの凱旋パレード

- ☆ 公の休日に、勝利を挙げて戻ってきた将軍たちに榮譽を宣言
- ☆ 国を挙げての凱旋パレードには行進順があった
- ★ 政治指導者、トランペット奏者、戦利品、捕虜にされた君主や指導者たちの長蛇の列、
官吏、楽隊、「釣り香炉」を持った祭司が第一陣
 - ★ 続く第二陣は、勝利を挙げた将軍、金の戦車、将軍の家族、軍隊、長蛇の列の捕虜、
「釣り香炉」を持った祭司が続いた
- ☆ 終着点で、捕虜は二つのグループに
- ★ 前列の捕虜は解放され、祭司の香炉の香りは「生命の香り」に
 - ★ 後列の捕虜は死の有罪判決を受け、
闘技場で獣の餌食になり、香炉の香りは「死の香り」に
-

- : 16 「ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり…」 :
* 二つのグループの存在
† キリストにある勝利者か、キリストを拒み滅びに至る人たちか
- : 17 「…神のことばに混ぜ物をして売るようなことはせず…」 (下線付加) :
* 小さな商取引に用いられるギリシャ語用語
* だまし取り、呼び売り商の概念を暗示
* 「救いを受ける」キリスト者は、この世に調子を合わせて潤色した福音を語る者ではなく、
「滅びに至る人々」には愚かな「十字架のことば」を「神の力」として、
語るべきことを聖霊に導かれて語る者たち
→ コリント人第一 1 : 18